

① しかい ステキな視界



※展示室のなかの状態は、観覧会を見に来てくれた人だけが知ってるよん。

異国は視界を広げる題材か

(うさぎ) みんないろんなところに行(い)って絵(え)を描(か)いとるけど、なかでも藤島武二(ふじしまたけじ)さんはずいぶん。フランス、イタリア、ベルギー、オランダ、ドイツ、イギリス、朝鮮半島(ちょうせんはんとう)、山陰地方(さんいんちほう)、鳥羽(とば)、潮岬(しおのみさき)、室戸岬(むろとみさき)、長野(ながの)、台湾(たいわん)、山形県(やまがたけん)、茨城県(いばらきけん)、中国(ちゅうごく)、モンゴル・・・。

(きつね)・・・また外国(がいこく)と日本(にほん)の場所(ばしょ)がぐちゃぐちゃになっとるわ。おまけに鳥羽(とば)は、三重県(みえけん)やに! 「えんそく」といえば鳥羽(とば)!

(うさぎ) 藤島(ふじしま)さん、風景描(ふうけい)の苦手(にがて)にがて)やで、うまくなるためにもヨーロッパ(い)行ったらしいな。そしたら4年間(ねんかん)で風景(ふうけい)いっぱい描(か)



藤島武二(ふじしまたけじ) 《レマン湖(こ)》1908年(ねん)



藤島武二(ふじしまたけじ) 《朝鮮風景》(ちょうせんふうけい)1913年(ねん)

(うさぎ) ちょっとちがう! 藤島(ふじしま)さんは、外国(がいこく)に行(い)くまえからさかあがりぐらゐの描(か)く力(ちから)はあったわ。さかあがりができるようになってから、連続(れんぞく)2回(かい)さかあがりができるぐらゐうまくなっとるけど、本当(ほんとう)に見(み)てもらいたいポイント(ポイント)は、藤島(ふじしま)さんが外国(がいこく)に行(い)ったであつてあたらしい世界(せかい)にであつ



ちよっとちがう!!

いて、得意(とくい)の分野(ぶん)や)にしてしまひはった。

(きつね) さかあがりのできてから鉄棒(てつぼう)が好(す)きになるんとおなじことやな。



そんなことない!!

(うさぎ) 次(つぎ)は南(みなみ)フランスにあるオーヴェル古寺(こじ)。

(きつね) さっき、ほかのひとがいうとったけど、ゴッホもこの絵(え)とおんなじお寺(てら)を描(か)いて、それで高畠(たかばたけ)さんはゴッホが好(す)きやったで、おんなじように描(か)いたんやてな。ゴッホの絵(え)は本(ほん)でみたことあるけど、そっくりやわ。

高畠達四郎(たかばたけたつしろう) 《オーヴェル古寺(こじ)》1967年(ねん)



て、風景(ふうけい)を描(か)くおもしろさと楽(たの)しさがわかつたってことなんさ。ようするに、はじめて会(あ)う風景(ふうけい)に刺激(しげき)されたわけやな。これはあくまでもぼくが勝手(か)ってに思(おも)うことやから、かってに受(う)け売(う)りしてノーベル賞(しょう)なんかとってきたらあかんに。

(きつね) とれるわけないやんか。

(うさぎ) そんなことない! ...そんなことないでえ。たしかに、夜(よる)の空(そら)に星(ほし)がキラキラ光(ひか)つとる感(かん)じとか、くつきり描(か)いとる感(かん)じは似(に)とる。そやけどな、色(いろ)はあざやかやけどゴッホよりしうい色(いろ)つかつとるし、たてものも手前(てまえ)の木(き)もすこくかわいらしく描(か)いてる。高畠(たかばたけ)さんは、ゴッホのことが好(す)きやった。ピストル自殺(じさつ)したゴッホの最後(さいご)の場所(ばしょ)にやって来(き)て描(か)いたのがこの絵(え)やに。でもな、きつね、ええポイントおさえとる。

(きつね) なにがさ?

(うさぎ) この新聞(しんぶん)のすきまがなくなってきたからいうけど、外国(がいこく)に行(い)って制作(せいさく)するっていうのは、みんな新(あたらしい)しい世界(せかい)をみつけないから行(い)くんやろし、新(あたらしい)しい世界(せかい)へのあこがれがあるんやろな。

(きつね) ぼく、そんなこと一回(かい)も言(い)うてへんわ。



ヴァン・ゴッホ 《オーヴェルの教会(きょうかい)》1890年(ねん) ※このさくひんはもろんでんじしていません。